

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名 三草二木 西園寺

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		小さい事業所であるため近隣の活動場所を活用している	
	2	職員の配置数は適切である		○			他の事業所と比べて、多いかどうかわからない
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		古い建物であるため全面バリアフリー化は難しいが、通路などはバリアフリーできている。車椅子のスムーズな移動ができない場所がある。特に留意している	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			ケース会議を定期的に行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者の方が自由に書ける欄を広く設け、相談や気になっていることを気兼ねなく記入できるようにしている	プログラムの要望や希望をできるだけ取り入れるように意識している。業務改善まではできていない
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	実施していない	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			県や市の社協が開催する研修に申し込みをし参加するよう努力している	子どもへの支援だけでなく、障害者に対する理解や知識の研修や学習会を実施している。また、他事業所の楽手会に参加している
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			書面でのアセスメントに加え、気になることについては、直接保護者や相談員と話をしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			連絡帳を導入し、保護者との連絡や情報をタイムリーに得ている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている			○	チームではなく、職員全体会議で検討し案を出している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節もののイベントは例年を参考にしているが、アンケートで聞き取りを行った活動も取り入れている。	大人数に特化したものではなく、個別ニーズに対応できる活動を増やしたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○				長期休暇に入る前にミーティングを行い、危険性や外出時のリスクを上げ、備えている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○			・本人の思いに沿って計画を立てているが、利用者数が少ない日など、集団活動が難しい日もある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前の打ち合わせは必ずしも行われているわけではない。前日までにその日の日案が作成され、支援開始前に各々が確認している。	活動十地域をもっと巻き込んだ支援をしたい。支援開始前に日案のもと、簡単に打ち合わせをすることもあがるが、しっかり打ち合わせをしていく必要がある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			職員共通ツールで気づいたことを報告している	・放デイ単独での支援終了後の打ち合わせは行っていないが、他セクション(高齢者デイ・就労スタッフ)を含む全体のタレにおいて、その日の支援を振り返り情報等の共有を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		記入方法や表現方法をチェックしている	・個別支援計画に沿った支援を提供・記録し、後の検証・支援改善につなげられるようにしている。ただ記述の仕方にバラつきが見られるために、客観的な記載をしていくよう統一していく必要があると思われる。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			必要である場合は相談員に相談し、ご家族へのアポイントメントを依頼している	定期的に、もれなく実施している
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○			・自立支援と日常生活充実のための活動と、運動に特化した活動を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			出来るだけ2名体制(サブ管と児童指導員or保育士)で会議に参加している。最も精通した職員と客観的に見る職員	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			送迎時のトラブル等のマニュアルを整備し活用している・現在医療	子どもの下校時刻等の確認、送迎時の対応、トラブル発生時の連絡等を行っている。

